

行田市の概要

行田市は、埼玉県の北部、東京都心から 60km 圏に位置している。市域は東西約 10.5km、南北約 12km、総面積 67.37 km²で、そのうち宅地が約 21.5%、農地が約 52%を占めている。昭和 24 年 5 月 3 日に県下 6 番目の市として誕生した行田市は、平成 18 年 1 月 1 日に北埼玉郡南河原村を編入合併して現在の市域となった。平成 18 年 12 月 1 日現在、人口は 88,332 人、世帯数は 31,846 世帯である。

埼玉県名発祥の地といわれる行田市埼玉には、国宝「金錯銘鉄剣」が出土した稲荷山古墳をはじめ、9 基の大型前方後円墳からなる「埼玉（さきたま）古墳群」があり、これを中心としたさきたま古墳公園が整備されている。市の天然記念物である行田蓮（古代蓮）をシンボルとした「古代蓮の里」とともに観光地として知られる。また、文明年間の初め頃に築城され、上杉、北条氏との戦いにも落城せず、石田三成の水攻めにも耐えた忍城は、関東七名城のひとつに数えられ、江戸時代には忍藩十万石の城下町として栄えた。

交通機関は、市内を横断する秩父鉄道の「行田市」駅ほか 3 駅と西端部を一部通過する JR 高崎線「行田」駅がある。秩父鉄道と JR 高崎線は、市の南西部を通過する上越新幹線と、隣接する熊谷駅で接続している。道路は、国道 17 号と熊谷バイパスが縦断し、国道 125 号と行田バイパスが横断しているほか、県道が市内外とを繋いでいる。交通利便性の向上を図るため、平成 18 年 4 月より市内循環バスを 4 路線各 10 便に増便した。

商業施設は、平成 18 年 10 月、国道 17 号熊谷バイパス沿いに「カインズモール行田」が誕生し、カインズスーパーホームセンター、ベイシアフードセンター、ベイシア電器、カインズオートの 4 店がオープンした。市内にある 1,000 m²以上の大規模小売店舗は 18 店舗を数える。市では郊外型商業施設とは別に、秩父鉄道行田市駅周辺をまちの核と位置づけ、既存商店街の組織強化や活性化戦略を進めている。

工業施設は、既に多くの企業が進出している富士見工業団地に加え、企業誘致の促進を図った長野工業団地の分譲により、物流施設を中心とした複数の企業を誘致した。現在は埼玉県企業局が行田みなみ産業団地を分譲中である。市では活力ある地域産業振興のため、地元企業と平成 13 年 4 月に開学した「ものづくり大学」との連携を図って、人や技術の交流を促進していく方針である。

行田市は平成 22 年度を目標年次とする第 4 次行田市総合振興計画に基づき、都市基盤、産業、福祉、教育・文化等の分野で少子・高齢化、高度情報化、グローバル化等に対応したまちづくりを進め「水と緑 個性あふれる文化都市」を目指している。現在、埼玉古墳群を世界遺産に登録しようという機運が高まり、まずは国指定史跡を特別史跡に格上げする働きかけをしている。